

Web会議システムを活用した児童同士が英語で交流する活動の実施

Web会議システムを活用して、菊陽中部小学校と本渡南小学校の児童同士が自分の町を英語で紹介する言語活動を実施。交流授業を単元終末の言語活動として位置付けることで、単元を通して、各児童が明確な相手意識や目的意識をもちながら主体的に学ぶことができる。また、未知の情報を伝える必然性のあるコミュニケーションを体験することで見方・考え方を働かせる質の高い言語活動を行うことができる。

遠隔交流授業の成果

- 初めて出会う同学年の友達とのやり取り
→適度な緊張感とコミュニケーションへの意欲の喚起
- 画面越しの交流
→相手の状況を基に伝える内容や表現を考え、理解を確認しながら話すなど、よりよく伝えようと見方・考え方を働かせる学びを促進
- 自分の町を紹介し合う
→相手意識や目的意識が高まる本物のコミュニケーション

実践にあたっての留意事項

- 学校全体の協力体制
 - ・担当者同士でのやり取りを円滑にする（管理職の理解・後押し）
 - ・時間割や実施時間帯の調整
 - ・ICTの環境整備
- 教科書の進度等
- 失敗を恐れない雰囲気
 - ・早めの打合わせ
 - ・間違いから学び合う学習集団づくり

効果を高めるための取組

- 単元を通じた言語活動の実施
→毎時間のSmall Talkにより質問や感想を伝えるスキルを磨く。



オンラインで町の自慢を紹介し合う

【児童の感想】

- 本渡南小の友達に伝わるように、相手の反応を見ながら、発表の仕方を今まで以上に工夫しました。
- 菊陽町の魅力を天草の学校の人たちに伝えるのがとても楽しかったです。機会があればまたやりたいです
- 質問するときは少し緊張したけれど、もっと天草のことを知りたかったので頑張って質問しました。次は何回も質問できるようにもっと英語を頑張りたいです。